

フレンチ・カンカン (1954)

FRENCH CANCAN
ONLY THE FRENCH CAN

メディア 映画
ジャンル ミュージカル
製作国 フランス
色彩 Color
時間 102分
初公開日 1955/08/26
公開情報 東和
リバイバル 1999/06 [ザジフィルムズ]

【解説】

ハリウッド製ミュージカルのひたすら上向きな幸福感とはまた違った、酸いも甘いもかみわけた大人の音楽喜劇として、膨らみのある幸福感に浸らせてくれる、ルノワールの傑作オペレッタ。彼が15年ぶりに祖国フランスで撮影した作品で、「大いなる幻影」以来のギャバンとの仕事でもある。1888年のパリで上流向けのクラブを営んでいたダングラールは、下町のキャバレーで見初めた踊り子ニニ（アルヌール）に触発され、自分の店を処分し、その店“白い女王”を買い取り、カンカンの復活を軸とした新しいショーを見せる娯楽の殿堂にしようと画策。が、女性にもてる彼をめぐって、以前の店からのスター、ローラとニニが衝突を繰り返し、ローラに気のある出資者が援助を止めたりして、なかなか計画通りにいかない。ニニにはパウロというパン職人の恋人があったが、嫉妬深い彼よりダングラールの渋さに参ってしまった。そんな彼女に秘かに焦がれて自殺まで図ったアラブの王子は、彼女との一度の逢瀬に満足して、その支援で何とか店も開店に漕ぎつけた。が、ショーの本番の直前、他の歌手にちょっかいを出すダングラールに腹を立て、ニニは楽屋にこもってしまう。けれども、観客の彼女を呼ぶ声に押し出されるようにフロアに出て、仲間と共にフレンチ・カンカンを快活に歌い踊るのだった。パリの名物だったムーラン・ルージュの由来を描いており（創始者ジドレルの名は変えられている）、ピアフを始めとするシャンソン歌手たちのゲスト出演も楽しみ。ラストのカンカンの勢いに魂を奥底から鼓舞され、ヴォケールの歌う主題曲“モンマルトルの丘”の楽しく、どこか感傷的なメロディには幸せな涙を流す、そんな作品だ。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
脚本	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
撮影	ミシェル・ケルベ	Michel Kelber
	クロード・ルノワール	Claude Renoir
音楽	ジョルジュ・ヴァン・パリ	Georges Van Parys
出演	ジャン・ギャバン	Jean Gabin
	フランソワーズ・アルヌール	Francoise Arnoul
	マリア・フェリックス	Maria Felix
	フィリップ・クレイ	Philippe Clay
	ミシェル・ピッコリ	Michel Piccoli
	ジャンニ・エスポジト	Giani Esposito
	エディット・ピアフ	Edith Piaf
	シュジー・プリム	Suzy Prim

